

メッセージアウトライン

マタイ 28:1~15、I コリント 15:12~22「イエス・キリストの復活」

「多くの人々の考え」

- 鯛(いわし)の頭も信心から。
- 分け登るふもとの道は多かれど、同じ高嶺の月を見るかな。
- どの宗教も同じ。日本人は宗教に寛容。
- どうしてイエスでなければいけないのか。

しかし、イエスは言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」 ヨハネの福音書 14:6

「道」とは人が歩むべき正しい道であり、真の神に到達する方法、手段を意味する。「真理」とは偽りのない事実、本当のこと、不純のない純真、変化も嘘も誤りもないなどの意味。「いのち」とは、しばらく現れてやがて消えていくようなはかないいのちではなく、すべてのいのちの源、人に永遠のいのちを与えることのできるいのちそのもののお方という意味。→ ヨハネの福音書 1:4、5:24~25

「父」とは父なる神、全知全能の神、永遠無限不変の神、天地万物を造られた創造主なる神のことを言う。この神のもとへ行くためには、「わたし」を通してでなければ行けないとイエスは言われる。

他のどの宗教の開祖、創始者、またその指し示す信心の対象であっても、イエスが教える神のもとへ行けないという。どの宗教でもよい、何でもよいとイエスは言っていない。

こういうことを主張するイエスとは誰か。可能性は二つ。誇大妄想狂か本物の神のもとから来られた、道であり、真理であり、いのちであるお方か。このイエスに対して私たちはどのような判断を下すべきだろうか。

マタイの福音書 28章 1~15

イエスはゲッセマネの園で捕らえられ、ユダヤ人たちの不当な裁判によって十字架につけられ、岩をくりぬいて造った墓に葬られた。墓は大きな石でふたをされた。

[1-2] イエスが葬られて三日目の日曜日(週の初めの日)朝早くまだ暗いうちにマグダラのマリヤとほかのマリヤが用意しておいた香料をイエスのからだに塗るために墓に来た。そのとき主の使い(天使)が天から降りてきて墓のふたの石をころがして、その上に座ったので大きな地震となった。

[3-4] 墓の番をしていたローマの番兵たちは御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がった。

[5-7] 御使いはマリヤたちにイエスが前から言っておられたように(マタイ 16:21,17:22-23,20:18-19)死より復活されたということを知らせ、弟子たちにこの復活の事実と、ガリラヤへ行くように言いなさいと告げた。

イエスは弟子たちの故郷ガリラヤで彼らと再会され、彼らを励まし、福音を宣べ伝えることを託されるのである。→マタイ 28:18-20

[8-10]しかし、イエスは彼女たちが弟子たちに知らせに行く途中でも、ご自身を現され、彼女たちの礼拝行為を受け入れられた。ユダヤ人は礼拝は真の神に対してのみすることを知っており、神でないものを神として拝む偶像礼拝は堅く禁じられていた。→出エジプト記 20:3~6 イエスが単なる人間であったならば、このような礼拝行為は拒まれたであろう。しかし、イエスは受け入れられた。それはご自身が単なる人間ではなく神のもとから来られた神の御子であったからである。聖書には父なる神、子なる神（イエス・キリスト）、聖霊なる神が示されており、これを神学用語では三位一体の神（神という本質においては一つであるが、父、子、聖霊という三つの位格を持っておられる）という。

[11-15]墓の番兵たちは彼女たちよりも早くエルサレムに着き、起こったことを全部祭司長たちに話したが、彼らはイエスの復活を信じ、悔い改めるところか、兵士たちに多額の金をやっけて丸め込み、弟子たちがやっけて来て、イエスの死体を盗んで行ったと言わせるように工作した。

このイエスの復活に関連して
コリント人への第1の手紙 15:12~22

もしもキリストが死よりよみがえらなかつたならばどうなるのか。

[13-14]①私たちの宣べ伝える福音は実質のない単なる気休めということになる。福音とは神のひとり子イエス・キリストを自分の救い主と信じる者は救われ、滅びに行くことなく永遠のいのちを与えられるということ。→ヨハネの福音書 3:16

[15-17]②私たちの信仰はむなしく、私たちは今もなお罪の中にあることになる。
[18]③当然、キリストを信じるクリスチャンも死に勝てない。

キリストにあつて眠つた者(死んだ者)は滅んでしまったことになる。

[19]④クリスチャンはすべての人の中で一番哀れな者となる。

[20]しかし、キリストはたしかに眠つた者の初穂として死者の中からよみがえられたのである。彼を信じて死んで行った信仰者もやがて復活の時が来る。

[21-22]死はアダムによって入ってきた。しかし、死よりの復活はキリストによって与えられるのである。

「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです」 ローマ人への手紙 3:23~24